

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770300279
法人名	社会福祉法人 敬世会
事業所名	グループホームやすらぎの家きやま
所在地	香川県坂出市川津町2001番地1 (電話) 0877-45-1611

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町1丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年5月12日	評価決定日	平成20年6月17日

## 【情報提供票より】(H20年4月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年2月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	13人 常勤 12人 非常勤 1人 常勤換算 12人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,074円	その他の経費(月額)	日常生活費150円×日数	
敷金	有 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	550円
	夕食	550円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(4月22日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3歳	最低	79歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井整形外科 医院、坂出市立病院、ツハサクリニック、大塚歯科医院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋平屋建ての住まいは木調風で、緑豊かな山間に高齢者施設の一つとして建物が位置づけられており、県下でも認知症高齢者のケアを先駆的に取り組んでいる。福祉法人・医療法人として高齢者福祉を総合的に営む中で、職員の研修体系、職員育成等組織的に取り組み、認知症高齢者のケアに熱意を持って、質の高いサービスを提供している。玄関のドアはオープンで、利用者は家庭的で自由な雰囲気の中で一人ひとりの個性を尊重した日常支援が実践できている。また、運営推進会議の取り組みから地域の交流が増えてきて、地域のイベントに参加、近隣の方々が庭手入れのボランティアの実施、住民の挨拶・声かけ、野菜等のいただき物などに広がっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、グループホーム全体としての自己評価の作成だったので、今回は各ユニット毎で職員と協議し、共有できている。運営推進会議で報告や協議、啓発活動、地域との交流、内部研修の充実などの取り組みがされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニット毎に管理者と職員全員で分担し、話し合いで前向きに取り組んでいる。地域密着型サービスの啓発と地域との付き合い、地域での役割等に法人全体で取り組んでいる。なお、一人ひとりが安心して暮らせ、プライバシーが保たれるよう共有空間の工夫など、尚一層の取り組みを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員は、家族、利用者、地区ボランティア代表、地区社会福祉協議会、地区民生委員代表、市職員等で地域の中でのホームの存在を強く意思表示している。グループホームでの取り組みの紹介と課題のアドバイス、地区行事参加や訪問の受け入れなど、地域交流の広がりが進んでいる。今後ともさらに、地域への啓発や市との連携が深まっていくよう期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年4回のホーム通信送付時に、利用者の健康状態やホームでの様子、金銭出納の報告をしている。家族の面会時には、管理者かケアマネージャーが面接をして、ホームでの様子や健康状態を報告し、家族の要望や意見を聴いている。家族会も年4回開催でき、職員も家族とのコミュニケーションに気をつけて、得られた意見や情報は記録をして管理者、職員間で話し合い共有し支援に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会、近隣等への働きかけは常に行っており、ホームの理解が得られてきており、地域交流行事参加や庭手入れのボランティア、犬を連れての散歩時の声かけ・挨拶などが日常になってきている。運営推進会議での議題としていろいろな面から取り上げて、常に地域の理解を得るように努めている。さらに地域での支え合い、ホームの役割などの連携を期待する。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームきやま独自の言葉で作った理念は「たとえ認知症の状態でも重度化しても、人間としての尊厳や権利を損なわず、最後までその人らしい生活のできる場を目指します」とし、職員全員が意義を理解している。そしてユニット毎に、3か月毎に努力目標を掲示・評価し、具体的な支援が実践できるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人として、理念を名札の裏にプリントして、職員の一人ひとりが意識した支援ができるよう努め、日々の話し合いや確認ができるシステムができている。3か月毎の評価と次の具体的な目標の設定は、職員全員で取り組み、利用者一人ひとりに努力目標が実践できるようサービスの向上に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や社会福祉協議会、近隣などへの働きかけにより、行事参加も増え、庭手入れボランティアや子犬を通じた子供達との交流等が増えている。年4回のホームだよりを、同法人の高齢者施設のコミュニティホールへ家族の了解を得て置いたり、ホームに近隣者が立ち寄って声かけをしてくれるなど付き合いができている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、職員全員に意義と目的を伝えて、全員で取り組みサービスの向上に努めている。外部評価の結果は運営推進会議でも報告して、具体的に解決できることから実践につなげるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の運営推進会議は、地域密着型の事業所の理解と支援をもらい、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努めている。委員は市の担当者、地区社会福祉協議会、地区民生・児童委員協議会の代表者、家族、利用者などで地域の中のホームのあり方、支援などについて話し合い、サービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議で事業所の実情やケアサービスの取り組みなどについて話し合い、必要時意見を交換して、指導や情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の入所費を持参納入にしているため、家族との連絡や情報交換等の機会として活用している。年4回「グループホーム通信」を作成し、送付時に写真や生活状態、金銭管理状況報告、健康状態と一緒に報告している。また、家族の面会時には必ず、管理者、ケアマネージャー、職員が暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱の設置や、面会時に家族から話を得られる雰囲気づくりに配慮している。家族などから得られた情報、意見は記録をして、職員へ伝達をして話し合い、共有して取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員と利用者の馴染みの関係を保てるように、職員の異動には最小限度に抑えるよう努力している。利用者がユニット間を気軽に行き来できたり、散歩などは2ユニット合同するなどの体制で職員と利用者の馴染みの関係は保たれている。やむを得ない場合は時期や引き継ぎの面での配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での毎月2回の責任者会は、各高齢者施設の理解と職員全員の育成の計画を行っている。法人内部研修は一般・専門研修と研究発表や事例検討など計画されており、県外での発表もできている。外部研修は受講の奨励と、希望者が参加できるように配慮されており、資格取得のための支援などもあり、職員が意欲的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や施設長、職員も同業者との交流があり、ネットワークづくりや相互訪問など少しずつ取り組みに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心できるよう家族と話し合い、入居前の面談やかかわりに努めている。家族や職員と一緒に見学したり、馴染みの利用者と一緒に訪問するなど雰囲気馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや、不安苦しみ、喜びなど共に感じられ、お互いが共有できるよう支援できている。料理づくりや畑など教えてもらいながら、一人ひとりの言動から分かることを確認し、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望は、日々の会話や行動、表情から把握に努め、職員間で共有し、利用者を確認したり、家族を交えて検討するなど意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりのケア計画は、担当者が利用者・家族と話し合い意見を出して、ケアマネジャーが家族や利用者、主治医に同意を得て作成されている。ホーカスチャーティングの記録方式を利用して、個別の具体的な気づきや支援の実践を確認して、個別の具体的な計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎の定期的な見直しのほか、利用者の状態の変化や利用者・家族の要望に応じて、アセスメントから随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、デイケアの利用や診察支援、外出・買い物、行事参加などの必要な支援に柔軟に対応するよう努めている。また、家族の宿泊希望にも対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院、医院、歯科医院などと連携して適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて通院、往診などの支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用の始めに意向調査をしており、利用者や家族の意向に沿えるように、かかりつけ医との連携に取り組んでいる。また、終末期の対応マニュアルを作り、看取りが近くなると看護師が中心となり、利用者、家族との話し合いを持ち、希望に沿えるように支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけなどは利用者の誇りやプライバシーを大切にした対応である。誘導や支援の対応は常に管理者からの指導が徹底しており、個人情報の保護の理解が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日のスケジュールの中、利用者が自分らしく過ごせるように、職員の見守り支援の中で、自由に過ごさせている。自分の部屋にいる時間は少なく、ユニット間の自由な行き来や交流も楽しみながら生活できている様子うかがえた。さらに、より個別性を活かすための支援記録が計画されている。	○	これから「24時間シート」を取り入れて、一人ひとりの行動を記録、分析して、利用者の行動パターンやホーム全体としての入居者の動きから、業務改善や個別支援のあり方を検討していこうとする取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人全体で献立と食材は用意されているが、おやつと昼食の食事作りと、日曜日の食材は買い物を利用者と共にして、季節を味わうなどの食事を楽しんでいる。材料切りから調理、配膳、片付けなどの一連の流れに利用者がそれぞれの役割に応じて参加し、職員と共同生活をいかした楽しみができる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主に、日中の入浴になっており、回数・時間等は一人ひとりの希望に沿えるよう努めている。また、利用者同士で気の合った者が一緒に入浴するなど入浴を楽しめる支援ができています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の楽しみごと(食事づくり、畑仕事、歌、散歩、ドライブ、買い物、ドリルなど)の支援ができています。暮らしの中で生活歴や力を活かした役割などには、感謝の言葉を添えて一人ひとりにあった支援が見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の健康と希望に沿って戸外への外出支援は、犬との散歩・買い物・ドライブ・近隣の行事参加などの気分転換や季節を体感する工夫をしている。ホーム前は坂であるが、体力づくりとしても外出への参加は、楽しみにしている様子が見える。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵はかけないでドアが開放されており、入居者は職員の見守りの中穏やかに過ごしている。一人ひとりの気分や状況をきめ細かくキャッチして、予見をした見守りと、安全面に配慮した支援で、安心した暮らしの支援がみられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練、避難通路の確認などを実施している。法人の高齢者施設間の連携と、地域の協力を得られるような働きかけにも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分、排泄パターン等の観察や表情、体重などの観察の記録・管理はできており、理事長(医師)、施設長、管理者、看護師と職員全員で共有している。利用者の体調の変化時には、早期に個別のシートで状態把握した対応の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有空間は木調風の中、落ち着いた空間となっており、清潔で整頓され、シンプルで居心地のよい工夫がされている。光と風が十分で自然の木々や風景が周囲に身近にあり、安心して暮らせる配慮をしている。共用空間の中で、さらに個人を尊重した空間づくりについての取り組みに期待したい。	○	個人を尊重し個別が保てる空間や、お互いを尊重し共用を楽しめる空間づくりなどについて検討しているので、さらに、利用者にとって居心地よく過ごせる空間になることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた日用品が持ち込まれ、生活感のある自由な個室となっている。入り口ののれんも一人ひとりの部屋らしく、また、入り口の表札も個別性を備えて、居室としての存在を支援している様子がうかがえた。		